

資料編

資料Ⅰ 通級による指導における実践例

	通級種別	対象児童・生徒の障害	指導形態	ページ
1	言語障害 通級指導学級	言語発達の遅れ	個別指導	145 ~ 147
2	情緒障害等 通級指導学級	自閉症	小集団指導	148 ~ 150
3		注意欠陥多動性障害	個別指導・小集団指導	151 ~ 155
4	弱視 通級指導学級	弱視	個別指導	156 ~ 159
5	難聴 通級学級	難聴	個別指導・小集団指導	160 ~ 163

- (1) 自立活動の指導内容決定までの流れ
- (2) 個別指導計画
- (3) 学習指導案

資料Ⅱ 通級指導学級の学級経営Q & A

- Q 1 通級する曜日が固定されることにより在籍学級で特定の教科等が受けられなくなることを考えられますが、どうすればよいのですか。
- Q 2 通級する時間数や回数を、年度の途中で変更してもよいのでしょうか。その際の、教育課程変更の手続きを教えてください。
- Q 3 月 1、2 回程度の指導とは、どのような指導内容になりますか。
- Q 4 通級による指導の授業は、1 単位時間（45 分または 50 分）ごとに行うのですか。
- Q 5 休み時間や給食の時間は指導時間に入りますか。
- Q 6 放課後・夏休み等の期間中に通級による指導を行ってもよいのでしょうか。それを授業時数に算定することはできますか。
- Q 7 通級指導において校外学習を行うことはできますか。
- Q 8 個別指導の時間は、必ず 1 対 1（児童・生徒一人に対して一人の指導者）で行う必要がありますか。
- Q 9 小集団での指導におけるグループ編成はどのようにして行ったらよいのでしょうか。
- Q 10 通級指導学級での、小集団指導の内容について教えてください。
- Q 11 通級指導学級における安全対策は、どのようにすればよいのですか。
- Q 12 在籍校との連携は、どのように進めたらよいのですか。

資料Ⅲ 関係法令・通知

- ・ 障害のある児童生徒の就学について（通知）
（平成 14 年 5 月 27 日付 14 文科初第 291 号）
- ・ 学校教育法施行規則の一部改正等について（通知）
（平成 18 年 3 月 31 日付 17 文科初第 1177 号）
- ・ 通級による指導の対象とすることが適当な自閉症者、情緒障害者、学習障害者
又は注意欠陥多動性障害者に該当する児童生徒について（通知）
（平成 18 年 3 月 31 日付 17 文科初第 1178 号）
- ・ 「情緒障害者」を対象とする特別支援学級の名称について（通知）
（平成 21 年 2 月 3 日付 20 文科初第 1167 号）
- ・ 「発達障害」の用語の使用について
（平成 19 年 3 月 15 日 文部科学省初等中等教育局特別支援教育課）
- ・ 都立特別支援学校（視覚障害・聴覚障害）への通級による指導の実施について（通知）
（平成 20 年 4 月 1 日付 19 教学義第 2188 号）

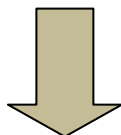
資料 I 通級による指導における実践例

ここでは、自立活動の指導内容の設定までの流れと、個別指導計画に基づく学習指導案の作成、日々の授業を展開するまでの手順を、障害種ごとに掲載しています。

それぞれの障害種で典型的な事例を取り上げ、自立活動の一人一人の児童・生徒の実態を把握するための情報整理から実態を踏まえた指導目標の設定、指導内容設定までの手順の流れ図、個別指導計画の作成例、それに基づいた学習指導案の作成例を示していますので、参考にしてください。

(1) 自立活動の指導内容設定までの流れ

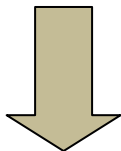
- ① 障害の状態や生活・学習環境など児童・生徒についての情報収集をする。
- ② 収集した情報を学習上又は生活上の困難の視点から整理する。
- ③ ②を受けて、優先する指導目標を決定する。
- ④ 指導目標を達成するために必要な自立活動の項目を選定する。
- ⑤ 選定された項目を関連づけ、具体的な指導内容を設定する。



(2) 個別指導計画

(1) での指導内容設定を受けて、個別指導計画を作成する。

※個別指導計画に必要な内容については、各個別指導計画(例)を参照。



(3) 学習指導案

(2) での個別指導計画を受けて、目標達成のための学習指導案を作成する。

※ 個別指導計画にある の内容についての、学習指導案を掲載している。

言語障害通級指導学級					
障害者名等		言語障害 児童 小学校 第3学年			
実態把握	障害の状態、発達や精神の程度、興味・関心、生活や学習環境などについて情報収集 収集した情報を自立活動の区分に関して整理				
	<ul style="list-style-type: none"> ・語彙が少なく、自分の言いたいことが伝えられず、イライラすることがある。 【心理的な不安・人間関係の形成・コミュニケーション】 ・身近な大人に認めてほしい、言いたいという気持ちがある。 【心理的な不安・人間関係の形成】 ・言葉を語義通りに受け取ってしまい、間違えた理解をすることがある。 【コミュニケーション】 ・聴覚的認知力の弱さからか、長い指示をよく聞いて、理解することが苦手である。 【環境の把握】 ・運動が得意。絵を描いたり、細かい機械などを組み立てたりすることが好む。 【人間関係の形成・コミュニケーション】 				
指導目標	集った指導目標の中で優先する目標として				
	指導目標 <ul style="list-style-type: none"> ・身近なものについての語彙を増やし、言葉のイメージを豊かにする。 ・言葉で状況や自分の気持ちなどできるだけ詳しく伝えられるようにする。 ・得意なことを通して、集中して取り組む気持ちや自信を付けさせる。 				
選定された項目	指導目標を達成するために必要な項目の選定				
	1 健康の保持	2 心理的な不安	3 人間関係の	4 環境の把握	5 身体の動き
具体的な指導内容	選定された項目を関連づけ具体的な指導内容を設定				
	<ul style="list-style-type: none"> ・テーマに沿った言葉を考えたり表したりする。 ・状況の絵を見て言葉で表したり、文脈にしたりする。 ・いろいろな文を書く。 ・言葉遊びなどで、柔軟な思考力をつける。 ・絵から受け取れるイメージを考え、表現する。 ・自分の気持ちや考えていることを自分の知っている言葉を駆使して表現する機会を与え、周りが理解したり、肯定したりする経験を増やす。 ・在籍学級に担任と、話をする機会を設け、担任に気持ちを伝える経験をする。 ・覚えた語彙や学習した状況、提示された絵の前後の状況などを想像して絵で表す。 ・自分の経験などを自分の知っている語彙や絵などを使って伝える。 				

(1) 自立活動の指導内容設定までの流れ

言語障害通級指導学級

障害名等 : 言語発達の遅れ
 児童 : 小学校 第3学年

障害の状態、発達や経験の程度、興味・関心、生活や学習環境などについて情報収集

収集した情報を自立活動の区分に即して整理

実態把握

- ・語彙が少なく、自分の言いたいことが伝えられず、イライラすることがある。
【心理的な安定・人間関係の形成・コミュニケーション】
- ・身近な大人に認めてほしい、甘えたいという気持ち強い。
【心理的な安定・人間関係の形成】
- ・言葉を語義通りに受け取ってしまい、間違っ理解をすることがある。
【コミュニケーション】
- ・聴覚的記憶力の弱さからか、長い指示をよく聞いて、理解することが苦手である。
【環境の把握】
- ・運動が得意。絵を描いたり、細かい機械類などを組み立てたりすることを好む。
【人間関係の形成・コミュニケーション】

幾つかの指導目標の中で優先する目標として

指導目標

- ・身近なものについての語彙を増やし、言葉のイメージを豊かにする。
- ・言葉で状況や自分の気持などをできるだけ詳しく伝えられるようにする。
- ・得意なことを通して、集中して取り組む気持ちや自信をつけさせる。

指導目標を達成するために必要な項目の選定

	1 健康の保持	2 心理的な安定	3 人間関係の形成	4 環境の把握	5 身体の動き	6 コミュニケーション
選定された項目		(1) 情緒の安定に関すること。 (3) 障害による学習上又は生活上の困難を改善・克服する意欲に関すること。	(2) 他者の意図や感情の理解に関すること。 (3) 自己の理解と行動の調整に関すること。	(2) 感覚や認知の特性への対応に関すること。 (5) 認知や行動の手掛かりとなる概念の形成に関すること。		(1) コミュニケーションの基礎的能力に関すること。 (2) 言語の受容と表出に関すること。 (3) 言語の形成と活用に関すること。 (4) コミュニケーション手段の選択と活用に関すること。 (5) 状況に応じたコミュニケーションに関すること。

選定された項目を関連付け具体的な指導内容を設定

具体的な指導内容	<ul style="list-style-type: none"> ・テーマに沿った言葉を考えたり表したりする。 ・状況の絵を見て言葉で表したり、文章にしたりする。 ・いろいろな文を書く。 ・言葉遊びなどで、柔軟な思考力をつける。 ・語から受け取れるイメージを考え、表現する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の気持や考えていることを自分の知っている語彙を駆使して表現する機会を与え、周りが理解したり、肯定したりする経験を増やす。 ・在籍学級に担任と、話をする機会を設け、担任に気持ちを伝える経験をする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・覚えた語彙や学習した状況、提示された絵の前後の状況などを想像して絵で表す。 ・自分の経験などを自分の知っている語彙や絵などを使って伝える。
-----------------	--	---	---

資料編
資料 1

(2) 個別指導計画

言語障害通級指導学級

平成○年度個別指導計画

○○立○小学校 言語障害通級指導学級

ふりがな <児童名> ○○ ○○	<在籍学校・学級> ○○小学校3年○組	<担任> ○○ ○○	<当教室担任> ○○ ○○	<通級形態> 週1回 2単位時間
<本児の願い> 言葉を覚えたい。		<保護者の願い> 言葉で自分の気持ちなどを伝えられるようになり、言いたいことが言えなくてイライラしたりしなくなしてほしい。		
目標	○身近なものについての語彙を増やし、言葉のイメージを豊かにする。 ○言葉で状況や自分の気持ちなどをできるだけ詳しく伝えられるようになる。 ○得意なことを通して、集中して取り組む気持ちや自信をつける。			
	ねらい	学習内容	評価	
一学期	(1)身近なもの、動作や状態を表す言葉等を覚える。 (2)2～3人の人がやりとりをしている絵を見て、文章化する。前後の状況を絵にして、説明する。 (3)覚えた語彙や前後の状況を得意な絵で表す。	(1)絵カードや情景を描いた絵について、出てくる語彙を覚えたり、説明したりする。 (2)状況の絵を見て文章にする。また、できた文を前後のつながりを確認しながら組み立てる。 (3)覚えた語彙や状況の前後を絵にして説明する。	(1)名称が出てこない場合は、「何をするもの?」といった質問をすると身振りを交えながら、「こうやってこうするもの」「こうやってはさむ。」とたどたどしいながらも、説明することができました。 (2)「どうして?」「その後は?」「どう思った?」等と一つ一つ丁寧に質問していくことで、文章をつなげていくことができました。また、後から思いついた文と前に言った文を「誰が?」等一つ一つ確認していくことで、時系列に並べていくことができました。 (3)意欲的に取り組み、状況絵は3コマ漫画のように吹きだしをつけるなどしていました。	
二学期	(1)語彙を増やし、自分の考えを説明できるようになる。 (2)言葉のイメージを豊かにする。 (3)言葉で説明できないことを絵で表す。	(1)(3)テーマに沿った言葉を考えたり、説明したりする。言葉で説明できないことは、絵で表す。 (2)“にせもの外国語クイズ”(「タベモノササール」といった造語が何を示しているのか考える。この場合の答えは「フォーク」「ようじ」など)	(1)(3)毎回テーマを決めて、それについて思いつく言葉を考えました。言葉を思いつかないが自分の考えがある場合には、絵で表してもよいことを伝えました。はじめは、現実にはないものを考え出して絵にしていました。名称が想起できないものや、想像上のものについては、自分で説明するよう促しました。得意な絵を使った学習であったことや、自分の想像したものを伝えたいという気持ちが大きかったこともあるのか、意欲的に取り組みました。 (2)当初は、指導者が考えたものが正解でそれと違っていると×であると思っていた様子でしたが、回数を重ねるうちに、いろいろな考え方があることが分かった様子で、「あー、そっちはそう考えたんだ。俺はこう思った。」というように柔軟に捉えることができるようになりました。	
三学期	(1)語彙を増やし、言葉のイメージを豊かにする。 (2)課題に沿った文を書くことで、語彙を増やしたり、文を構成したりする力をつける。 (3)自分の言いたいことを相手に伝えられるようになる。	(1)テーマに沿った言葉集めクロスワード、さかさま言葉を作るなど → p147 参照 (2)いろいろな文を書く。 (主語・目的語・述語をそれぞれ書き、組み合わせを変えて、文にする、指導者と一文ずつ文をつなげて、小説風にする、擬声語などを入れて文を書く等) (3)出来事を話す。 → p147 参照	(1)言葉集めでは、テーマに沿った言葉を考えました。語彙が思い浮かばないときには図示したり、「こんなもの」と形や用途などを表現したりするなど、相手に伝えようとする意欲が感じられるようになりました。クロスワードパズル等では、問題文の意味が理解できないことがありました。指導者が解いてみせると「あーそういうこと。」と理解して取り組みました。 (2)いろいろなやり方で文を書くことで、文章を書くことに慣れてきました。指導者と自分の表現を比べてみるなど意欲的に取り組みました。 (3)“冬休みの話”“作品展について”など、毎回、指導のはじめに話を聞く時間を設けました。言葉を想起できないときには絵で表したり、自分の覚えている語彙を駆使してなんとか伝えようとした様子が見られました。言葉が拙い部分では、指導者が引き出しながら、話を進めました。同じことを違う表現で聞き出ししたりしましたが、途中であきらめることなく最後まで話を続けることができました。	

(3) 学習指導案

言語障害通級指導学級

自立活動 学習指導案 (言語障害・個別指導)

- 1 児童 小学校 第3学年
 2 指導者 ○○ ○○
 3 本時の目標

※ 下の【 】は
 自立活動の該当する
 6区分26項目を示しています。

○自分なりの表現方法で、発表会について話し、教員に伝える。

【2(3)、4(3)、6(1)(2)(3)(4)】

○お正月に関する言葉や情景を考え、語彙を広げる。

【4(5)、6(2)(3)】

○『にせもの外国語』のクイズを通して、言葉のイメージを広げる。また、相手と自分の考え方の違いに気づき、認め合う。

【2(1)(3)、3(2)(3)、4(5)、6(3)】

4 展開

時間	学習内容	指導上の留意点	教材・教具
10分	(1)発表会の話 ○先週終わった発表会について様子や感想を話す。	(1) 「楽しかった」の一語で終わってしまう場合は次のように対応する。 →○前回聞き取った、発表会の演目やどのように発表するかといった情報を元に、具体的に聞き出す。 ○言葉のみのコミュニケーションでは伝わりにくいときに、図や絵で示すことができるように、白紙の紙を用意しておく。	(1) 白紙の紙、 筆記用具
20分	(2)「お正月」と聞いたら何が浮かぶ？ ○「お正月」という言葉から連想される物や情景を思い浮かべ、言葉で表現する。	(2) 「お正月」のみの問いかけだと、「分かんない」と考える意欲がなくなってしまう場合は次のように対応する。 →「冬休みっていつから？」といった会話から入っていく。 →「○○くんは、お正月で楽しみなことは何？」といった具体的な聞き方で引き出す。 →思い浮かばない様子の時には、「お正月に食べるものは？」といったヒントを出す。 →ある程度、出尽くしたら、絵を見せ、出てきた語や出てこなかった語について話し合いをする。	(2) お正月にちなんだ絵
15分	(3)『にせもの外国語』クイズ (ヒルトジャー→答：シャワー、水道といった造語を聞いて、その語が示しているものを考える) ○本児と教員とで同時に解き、見せ合う。 同じ問いで違った解答をしているところはお互いに説明する。	(3) ○教員は、絵と文字で解答する。また、1問は、児童の解答と違う解答が出るようにする。 ○児童は、絵のみでもよしとする。 その場合は、見せ合うときに、語彙を教え、書き込んであげる。 ○想像の物を描いていても、児童の解答を尊重する。	(3) 問題プリント、 衝立

資料編
資料1

5 評価

○自分なりの表現方法で、発表会について話し、教員に伝えられたか。

○お正月に関する言葉や情景を考え、語彙を広げられたか。

○『にせもの外国語』のクイズを通して、言葉のイメージを広げられたか。また、相手と自分の考え方の違いに気づき、認め合えたか。

(1) 自立活動の指導内容設定までの流れ

情緒障害等通級指導学級

障害名等 : 自閉症
生徒 : 中学校 第1学年

実態把握

障害の状態、発達や経験の程度、興味・関心、生活や学習環境などについて情報収集

収集した情報を自立活動の区分に即して整理



- ・情緒が不安定になると衝動的な行動や自傷行為が現れる。 【心理的な安定】
- ・苦手な教科の学習は意欲的に取り組めない。 【心理的な安定】
- ・積極的に友達とかかわろうとするが、相手の意図や状況の把握ができず対人関係や行動面でのトラブルになりやすい。 【人間関係の形成】
- ・初めての場所や物事への対応や変更への対処が苦手 【環境の把握】
- ・自分の興味関心のある事を一方的に話す。 【コミュニケーション】
- ・自分の経験や考えをうまく相手に伝えることが苦手で、言葉遣いが不自然 【コミュニケーション】
- ・ボールを使った運動やリコーダーの演奏等が苦手 【身体の動き】
- ・味覚の過敏があり、好き嫌いが激しい。 【環境の把握・心理的な安定】

幾つかの指導目標の中で優先する目標として



- | | |
|------|---|
| 指導目標 | <ul style="list-style-type: none"> ・自分の考えや気持ちを適切に相手に伝える方法を理解させる。 ・相談したり、援助を求めたりするスキルを生活や学習場面で使用させる。 |
|------|---|

指導目標を達成するために必要な項目の選定



	1 健康の保持	2 心理的な安定	3 人間関係の形成	4 環境の把握	5 身体の動き	6 コミュニケーション
選定された項目		(3) 障害による学習上又は生活上の困難を改善・克服する意欲に関すること。	(2) 他者の意図や感情の理解に関すること。 (4) 集団参加の基礎に関すること。	(4) 感覚を総合的に活用した周囲の状況の把握に関すること。		(5) 状況に応じたコミュニケーションに関すること。

選定された項目を関連付け具体的な指導内容を設定

具体的な指導内容	<ul style="list-style-type: none"> ・話し手、聞き手の役割を意識して会話をする。 ・援助を求める、相談する、お礼を言う、誘うなどの場面に使われる言葉を知り、適切に使用する。 ・自分の考えや気持ちを適切に表現できるよう5W1Hを使って状況を分かりやすく説明する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の気持ちが不安定になったときに言葉で援助を求めたり、一時的に避難したりするなどの方法を身に付ける。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学習を進めるために、視覚的な情報の処理や記憶などの得意な認知の特性を確かめ、各教科の学習時における活用方法を身に付ける。
----------	--	--	---

(2) 個別指導計画

情緒障害等通級指導学級

個別指導計画 (○学期用)

作成年月日 ○年 ○月 ○日 学校名 ○ ○ 中学校
 生徒氏名 ○○ ○○ 在籍校・クラス ○○中学校 ○年 ○組
 保護者氏名 ○○ ○○ 在籍校担任氏名 ○○ ○○
 通級期間 平成○○年○月○日～ 指導時間数 週○回 ○時間
 ○年○月○日

本人・保護者の願い

本人	<ul style="list-style-type: none"> ・作文が書けるようになりたい。文章題や応用問題が分かるようになりたい。 ・楽しく中学校生活を送りたい。
保護者	<ul style="list-style-type: none"> ・コミュニケーション能力の向上と基礎学力を付け高校へ進学して欲しい。 ・本人の得意な所や社会性を伸ばし、自信をつけて欲しい。

年間の目標

- 自分の考えや気持ちを適切に相手に伝える方法を理解する。
- 相談したり、援助を求めたりするスキルを生活や学習場面で使用する。
- プリントの管理や身の回りの整理・整頓の方法を知る。
- 得意な学習方法を活用し、言葉の意味や数・量の基本的な概念を理解する。

指導目標	指導内容	指導の手だてと評価
<ul style="list-style-type: none"> ・人と関わる言葉を知り、活用できる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「援助を求める。」、「相談する。」、「お礼を言う。」、「誘う。」など、状況や場面に使われる言葉を知り、適切に使用する。 → p150 参照 	<ul style="list-style-type: none"> ・ワークシートを用意する。
<ul style="list-style-type: none"> ・話し手と聞き手の役割を意識して会話できる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・話題を共有し、話し手・聞き手の役割を意識して会話する。 → p150 参照 	<ul style="list-style-type: none"> ・モデリングをして見せる。 ・ロールプレーを活用して指導する。
<ul style="list-style-type: none"> ・5W1H を使って話せる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・5W1H を使ってあったことや興味あることを分かりやすく話す。 	<ul style="list-style-type: none"> ・5W1H の短冊を用意する。 ※日常の適切な行動や関わりを評価し、強化する。
<ul style="list-style-type: none"> ・言葉の意味や数・量の基本的な概念を理解できる。 ・カバンの中やプリント類を整理できる。(学習環境を整えること) 	<ul style="list-style-type: none"> ・文章の文節ごとのキーワードの意味を調べ、文節の内容を要約する。 ・カバンの仕切りごとに入れるものを決め、整理手順表を活用して整理する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・文章の内容を図や表、絵を利用してまとめる。 ・授業の途中や終了時にプリントを整理する時間を取る。

資料編
資料 I

自立活動 学習指導案 (情緒障害等・小集団指導)

- 1 生徒 ○○ ○○ (第1学年) 他○名
- 2 指導者 T₁: ○○ ○○ T₂: ○○ ○○
- 3 単元名 「方向や位置を表す言葉の理解と使用」

(本時) 地図を使った道順の説明

※ 下の【 】は
自立活動の該当する
区分(項目)を示しています。

- 4 本時の目標
 - ・方向や位置を表す言葉の概念を理解する。 【4 (5)】
 - ・立っている位置や体の向きなどの状況を踏まえて時系列で説明する。【4 (4)、6 (5)】
 - ・話題を共有し、質問し、援助が求められる。 【3 (1) (4)、6 (1) (5)】

5 各生徒の目標

生徒 1 話し手・聞き手の役割を意識して、説明したり、聞いたりできる。
(以下省略)

6 展開

	学 習 活 動	指導上の留意点	教材・資料
導 入 10分	前回までに習った ・教室の机の位置を表す言葉 ・学校の中の場所を表す言葉を復習する。 T ₁ の質問に答える。	生徒の向いている方向で説明する。 T ₂ : 個別に確認する。 ・指名された人が答えるよう指示する。	T ₂ : 既習の言葉を記入した模造紙を掲示する。
展 開 35分	・ワークシートに日付、曜日、天気、氏名を記入する。 ・本時の活動内容の説明を聞き、例題を使ったT ₁ の質問に答える。 ・今いる場所から目的地までの道順の動線を引き、そこまでの経路をまとめる。 ・目的地までの経路を一人ずつ発表する。	T ₂ : 指示が徹底しているか確認する。 ・話し手、聞き手の役割を確認する。 ・内容を確認するための質問を促す。 ・人形を使って向いている方向や位置を確認しながら説明する。 T ₂ : 位置や場所を表すことが苦手な生徒を別室で指導し、発表の準備を支援する。 ・発表順は生徒の合意で決める。 ・ゆっくり、適切な声の大きさと発表するよう指示する。	・ワークシートを用意する。 ・拡大した地図を用意する。 ・大小の人形を用意する。 T ₂ : 生徒分の発表用の拡大地図を掲示する。 ・マジックと定規を用意する。
ま と め 5分	・ワークシートの自己評価欄を記入する。 ・自己評価を発表する。	・T ₁ とT ₂ から、活動の中で良かった点を具体的に挙げ、プラスの評価をする。	T ₂ : 準備した用具を片付ける。

6 評価

- (1) 位置や場所を表す言葉を使って分かりやすく説明できたか。
- (2) 質問したり、援助を求めたりして他の生徒と楽しく活動できたか。

(1) 自立活動の指導内容設定までの流れ

情緒障害等通級指導学級

障害名等 : 注意欠陥多動性障害
 児 童 : 小学校 第4学年

障害の状態、発達や経験の程度、興味・関心、生活や学習環境などについて情報収集

収集した情報を自立活動の区分に即して整理

実態把握

- ・整理整頓が苦手で生活習慣の形成が難しい。 【健康の保持】
- ・いらいらしたり、パニックになったとき注意されることが多く自信が低下している。 【心理的な安定】
- ・状況に合わない言動があるため、集団行動をとることが難しい。 【人間関係の形成】
- ・勝ち負けにこだわり、ルールを守れないことが多い。 【人間関係の形成】
- ・様々な刺激に過敏に反応し、すぐに気をとられてしまう。 【環境の把握】
- ・多動、衝動性があり、身体を常に動かしていてじっとしてられない。 【身体の動き】
- ・人との関わりは多いが、衝動的に思い付いたことを言うためトラブルになる。 【コミュニケーション】

幾つかの指導目標の中で優先する目標として

指導目標

- ・気持ちをコントロールして、周囲の状況に適した行動をとる。
- ・自分の気持ちや考えを相手に分かるように言葉で表現する。
- ・友達と関わって仲良く交流することができる。
- ・できることを増やし、自信を持つことができる。

指導目標を達成するために必要な項目の選定

	1 健康の保持	2 心理的な安定	3 人間関係の形成	4 環境の把握	5 身体の動き	6 コミュニケーション
選定された項目	(1) 生活のリズムや生活習慣の形成に関すること。	(1) 情緒の安定に関すること。 (2) 状況の理解と変化への対応に関すること。	(1) 他者とのかかわりの基礎に関すること。 (2) 他者の意図や感情の理解に関すること。 (3) 自己の理解と行動の調整に関すること。 (4) 集団への参加の基礎に関すること。	(2) 感覚や認知の特性への対応に関すること。	(1) 姿勢と運動・動作の基本的技能に関すること。 (5) 作業に必要な動作と円滑な遂行に関すること。	(5) 状況に応じたコミュニケーションに関すること。

選定された項目を関連付け具体的な指導内容を設定

具体的な指導内容	<ul style="list-style-type: none"> ・勝ち負けの結果の受け入れ、折り合いの付け方を学ぶ。 ・簡単なゲームのルールを理解と遵守を学ぶ。 ・上手な話の聞き方やとっさの一言、余計な一言のコントロールができるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・不安や怒りの気持ちの対処の仕方を学ぶ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ペグボード、のれん作り等の簡単な作業に取り組み、集中力を付けるとともに、成功体験を広げる。
-----------------	--	--	--

資料編
資料 1

(2) 個別指導計画

情緒障害等通級指導学級

平成○年度 個別指導計画 前期

○○立○○小学校

児童名	○○○○	在籍校	○○立○○小学校 4年1組	担任名	○○○○	生年月日	平成○年○月○日
作成者名 (通級担当)	○○ ○○	作成年月日	平成 ○年 ○月 ○日	指導時間	週1回4時間		
保護者の願い				目指す児童像・年間指導目標			
<ul style="list-style-type: none"> ・集団の中で落ち着いて行動することができるようにしたい。 ・友達との適切な関わり方を学ばせたい。 ・文字を上手に書ける等、自信を付けさせたい。 				<ul style="list-style-type: none"> ① 気持ちをコントロールして、周囲の状況に適した行動をとることができる。 ② 自分の気持ちや考えを相手に分かるように言葉で表現することができる。 ③ 友達と関わって仲良く交流することができる。 ④ できることを増やし、自信を持つことができる。 			
	短期目標	指導の手立て			内容	評価	
運動	<ul style="list-style-type: none"> ① 指示通り行動することができる。 ② 様々な運動に取り組み、自信を付ける。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 話の聞き方を示した表を見せたり、振り返り学習を行ったりして言動のコントロールを促す。指示をしっかり最後まで聞くよう、具体的に教える。少しでもできている時にはこまめに評価し、褒められる経験をさせる。約束やルールについては、事前に見通しが持てるよう、具体的に分かりやすくポイントを説明しておく。 ・ 目当てや運動のポイントを分かりやすく示し、丁寧に教える。向上したところを本人と確かめ、褒める。 			だるま〈腹筋の運動〉・ひこうき〈背筋の運動〉、サーキット〈はしご・平均台渡り等〉、反復横跳び、幅跳び、水泳等	(略)	
個別指導	<ul style="list-style-type: none"> ① 人の表情や感情、状況に気付くことができる。 ② できることを増やし、自信を持つことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 人の表情や感情について教える。 ・ 状況絵を用いて、状況を読み取る。 ・ 出来事の振り返りを行う。 ・ 視写やのれん作り等を通して、認知面での弱い点を補充するための練習を行う。 			状況絵、行動の振り返り、コミック会話、 手指の巧緻性、目と手の協応等	(略)	
コミュニケーション	<ul style="list-style-type: none"> ① 自分の気持ちや考えを、言葉で相手に分かるように伝えることができる。 ② コミュニケーションの基本的なスキルを身に付ける。 ③ 友達と仲良く交流することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 気持ちや考えを教員は共感的に聞く。相手に伝わるように話したり、相手の言葉を受け取って返事をしたりするよう、必要に応じて教員が援助する。感覚、感情を表す言葉の語彙を増やし、日常の場面でも活用できるように促す。必要に応じて教員が言葉を補ったり、言い方を教えたりする。 ・ 「頑張り表」等を活用し、今やるべきことを意識できるよう視覚的に分かるような働きかけをする。できるようになったことは、言葉掛けを少なくする。できそうにない時には、ルールを確かめる。 ・ やり方や言い方を分かりやすく示し、少しでも向上した点を本人と確認してほめる。学習したスキルや方法を使ってよかったという実感が持てるような場面を意図的に設定する。また、学習したスキルを、いろいろな相手や生活場面でも公正に使うことができるよう促す。 ・ 上手な頼み方や断り方、誘い方、話し合いの仕方等、学習したことを友達との関わりの場でも活かすよう言葉掛けをする。 ・ 相手の気持ちも考えて行動しようとしているか、事前にめあてを持って取り組めるよう支援する。遊びの中でトラブルが起きた時には教員が間に入り、適切に状況を理解して解決方法を学べるよう支援する。 			上手な話の聞き方、話し方、上手な話し合いの仕方、勝ち負けの受け入れ、自分の感覚や感情への気付きと表現 ルールの理解と遵守、 → p154・155 参照 折り合いの付け方等	(略)	

総合所見	(略)
------	-----

(3) 学習指導案**情緒障害等通級指導学級****自立活動 学習指導案 (情緒障害等・個別指導)**

- 1 児童 ○○ ○○ (小学校 第4学年)
 2 指導者 ○○ ○○
 3 単元の指導内容

学習活動	めあて	指導内容
状況絵カード、表情絵カードなど	・場の状況、人の表情に気付くことができるようにする。	・絵カードを用いて、場の状況や人の表情に気付いたり、言葉で表現したりする。 ・どうしてそのような状況、表情になったのか考える。
視写、漢字の学習、形の見取り、点つなぎなど	・文字をうまく書ける経験を積み、自信を持てるようにする。 ・細かいところまで形を見取ることができるようにする。	・お手本どおりに文字を写したり、漢字を書いたりする中で、「うまく書けた。」という経験を積む。 ・形の細部に目を向けて書き写す経験を積む。
のれん作り、紙工作など	・指先の巧緻性を高め、文字が書きやすくなるようにする。	・指先を使ってつまむ、丸める、切る、貼るなどの経験を積む。

- 4 本時の目標
- ・状況絵カードを見て、場の状況を読み取ることができる。 【2(1)、4(1)(2)(4)】
 - ・マスからはみ出ないように、文字を書くことができる。 【2(1)(3)】
 - ・指先を使ってつまんだり、丸めたりしてのれんを作ることができる。 【5(5)】

5 展開

	学習活動	指導と支援のポイント
導入 2分	1 本時で行う学習の内容を確認する。	○行う内容を表に示し、見通しを持ちやすくする。 ○表にチェック欄を設け、学習が終わるごとに、シールを貼ったり、スタンプを押したりして意欲を高められるようにする。
展開 40分	2 状況絵カードを使い、場の状況を読み取る。	○児童の気付きを拾い、どんな状況なのか、どうしてそうなったのか、どうしたらよいのかを考えさせていく。 ○言葉で絵の状況を表現できないときには、過去の同じような経験があれば話をさせる。 ○注意が絵の様々なところに飛んでしまうときには、考えてほしい絵の部分やそれに関する絵の部分だけ見せるようにする。 ○最後に絵の説明文を読み、状況の確認をしていく。
	3 視写を行う。	○書き始めが分からないときは、赤ペンで字の書き始め位置をマスに打つことで書きやすくする。 ○お手本の文章を文節に区切り、かたまりとして捉えやすくすることで、書くことへの抵抗感を減らす。 ○マス目が大きい用紙を用いて、字がマスからはみ出しにくいようにし、自信を持って書けるようにする。
	4 のれん作りを行う。 ・チラシで作った15cmほどの二等辺三角形の紙を、つまようじを芯にして指先を使い丸めていく活動	○作り方のお手本を見せるなど、作業工程を視覚的に示し、見通しを持ちやすくする。 ○事前にうまくいかないときの手助けの求め方を確認する。 ○手助けを上手に求めることができたときには、褒め、教師が補助する。 ○のれんを浮かせて、指先を使ってつまんだり、丸めたりするように言葉掛けをする。
まとめ 3分	5 本時の学習を振り返る。	○表を見直し、頑張ったことやできたことを確認し、次時の意欲につなげる。

6 評価

- ・状況絵カードを見て、場の状況を読み取ることができたか。
- ・マスからはみ出ないように、文字を書くことができたか。
- ・指先を使ってつまんだり、丸めたりしてのれんを作ることができたか。

資料編
資料1

(3) 学習指導案

情緒障害等通級指導学級

自立活動 学習指導案 (情緒障害等・小集団指導)

- 1 児童 ○○ ○○ (第4学年)
- 2 指導者 T1:○○ ○○ T2:○○ ○○ T3:○○ ○○
- 3 単元名 「ルールを理解と遵守」
- 4 本時の目標 ○児 (他の児童は省略)

※ 下の【 】は自立活動の該当する区分(項目)を示しています。

- ・ルールを理解し、守ることの大切さや、ルールの解釈が違った場合の対処の仕方を知ることができる。 【2(2)、3(1)(2)(3)(4)、6(5)】
- ・遊びを始める前にルールを確認し、ルールを守って遊ぶことができる。 【2(2)、3(1)(2)(3)(4)、6(5)】

5 展開

	学習活動	指導と支援のポイント	個別の配慮事項		
			ADHD 傾向	自閉傾向	情緒障害
導入 (10分)	1 遊びのマナーや友達とのよりよい関わり方について個々に確認を行う。	○T1(指導者)は、友達と仲良く過ごすためのマナーやスキルを具体的に一人一人確認する。	○多動多弁傾向が強い。勝った時や負けた時の態度、また友達への言葉掛け(あったか言葉、ちくちく言葉)の方法について具体的に確認する。	○友達によさに目を向けさせるため、前回の通級時でその友達とよりよい関わりができた時のことを振り返る。 ○周りの児童からの刺激(気になる言葉や音等)が気になって落ち着けない場合には、T2に言葉で伝えるように促し、注意は教員がすることを伝える。	○友達の言動や活動自体に不安感がある時は、T3がその気持ちを受け入れ共感してあげて、不安が軽減できるように励ます。嫌なことや自分の気持ちを、相手に伝える方法で側にいるT3に伝えればよいことを説明し、事前に確認する。
展開 (30分)	2 本時の学習内容を確認する。	○T1は児童が大きな不安を抱かないよう、やさしくかみ砕いた言葉で説明する。 ○ルールを守ることや遊びを始める前に確認することが大切なのは、みんなと仲良くするためであることを押さえる。 ○板書を使い、視覚的に見通しが持てるようにする。 ○話の聞き方ができている時には褒めて励ます。	○話の聞き方の約束を確認し、少しでもできていることをほめて励ますことで、注意・集中が持続しない時の行動の修正を促す。	○見通しが持てず不安を感じているような場合には、もう一度説明を求めたり、分からないことをT1に質問したりする方法をT2が教えて実行するように促す。	○話の聞き方を確認し、できている時には褒めて励ます。 ○不安を感じている場合には、担当教員T3が個別に説明して安心感を与える。

	<p>3 ルールの大切さを考える。</p> <p>①遊びのルールが分からない時は、始める前に確認することを知る。(寸劇1)</p> <p>②ルールの解釈が異なっていた場合の対処の仕方を知る。(寸劇2)</p>	<p>○不適切なモデルを教員が寸劇で演じ、どうすることがよいかを考えさせる。</p> <p>○T1は児童の意見を簡潔にまとめて板書し、視覚的に確認できるようにする。</p> <p>○ゲームを始める前には、ルールを全員で確認した方がよいことを押さえる。</p> <p>○ゲームが始まってから、ルールの解釈が異なっていてゲームが中断してしまった場合には、その場でじゃんけんをしたり、ルールを再確認したりして、相談して折り合いを付ければよいことを押さえる。</p>	<p>○集中が続かず、話し手を見られなかったり、活動に取り組みそうもなかったりした時には、時間の見通しを示し集中を促す。少しでも聞こうとした瞬間に評価し、視覚的にもほめられたことが分かるように花丸を書いたりする。</p> <p>○寸劇を最後まで見て、説明を聞いてから質問するように、先に予告して意識させる。区切れを待って質問ができればほめる。</p>	<p>○寸劇の内容が分からない場合には、T2が理解できる言葉で解説して状況の理解を促す。</p> <p>○周りの児童からの刺激(気になる言葉や音等)が気になって落ち着けない場合には、側にいるT2に言葉で伝えるよう促し、できた時にはほめる。</p>	<p>○寸劇の内容が分からない場合には、T3が理解できる言葉で解説して状況の理解を促す。</p> <p>○周りの児童からの刺激(気になる言葉や音等)が気になって落ち着けない場合には、教員がその児童に注意することを伝え、安心感が持てるよう配慮する。</p>
<p>展開 (30分)</p>	<p>4 みんなで「○○すごろく」をする。</p>	<p>○T1は視覚的に分かりやすいように配慮し、ゲームの前にルールの確認をさせる。</p> <p>○ルールをしっかり確認できたことや守れていることを褒めて励ます。</p> <p>○勝ち負けにこだわらず、一緒に遊ぶ楽しさを味わわせる。</p> <p>○教員も一緒に遊びに参加し、勝ち負けの結果を意図的にコントロールして、結果を受け入れられるように配慮する。</p>	<p>○ルールを守って遊べるよう、できていることを褒めて励ます。</p> <p>○負けそうな状況や友達の言動に過敏に反応してゲームへの参加が難しくなる前に、T1が声をかけて気持ちを鎮められるように自分で意識してクールダウンさせるようにする。</p>	<p>○ゲームのやり方やルールが理解できていないような場合には、近くのT2に援助を求めさせ、かみ砕いて説明して確実に理解できるようにする。</p> <p>○負けそうな状況や、友達の言動に過敏に反応してゲームへの参加が難しくなる前に、T2が声をかけて気持ちを鎮められるように自分で意識してクールダウンさせるようにする。</p> <p>○みんなで遊ぶことが楽しいということを言葉掛けをする。</p>	<p>○担当教員T3が傍に付き添って適宜援助してゲームに参加させ、不安そうな時には安心できる言葉かけを行う。</p> <p>○負けそうな状況や友達の言動に不快や不安を感じるような場面では、T3が本児の心理的状态を見極めて、気持ちを自己コントロールさせたり、一時的に教員が代わりにやってあげたりして、最後までゲームに参加して楽しかった経験が残るように適宜援助する。</p> <p>○みんなで遊ぶことが楽しいということを言葉掛けをする。</p>
<p>まとめ (5分)</p>	<p>5 本時の学習を振り返る。</p>	<p>○本時の振り返りをし、よかったところを言葉で確かめる。</p>			

6 評価

- ・ルールを理解して守ることの大切さや、ルールの解釈が違った場合の対処の仕方を知ることができたか。
- ・遊びを始める前にルールを確認して、ルールを守って遊ぶことができたか。

(1) 自立活動の指導内容設定までの流れ 弱視通級指導学級

障害名等 : 弱視
 児 童 : 小学校 第1学年

障害の状態、発達や経験の程度、興味・関心、生活や学習環境などについて情報収集

収集した情報を自立活動の区分に即して整理

実態把握

- ・自分から積極的に働きかけることは少ない。 【環境の把握・人間関係の形成・健康の保持】
- ・興味のある物には目を近づけて見ようとする。視距離5cmくらいで絵本の挿絵を見る。 【環境の把握】
- ・絵カードの動物や果物、日用品のうち、形体が類似した別の物と見間違えることが時々ある。物の名称は知っている。 【環境の把握、コミュニケーション】
- ・紙を折る、ひもを通す等の作業では、目で見ずに手指を動かすことが多い。集中して取り組む。 【身体の動き・環境の把握】
- ・体を動かす運動遊びを好むが、初めての運動には自信がなくやりたがらない。 【身体の動き・心理的な安定・健康の保持】
- ・弱視レンズ類の使用経験はない。 【環境の把握】

幾つかの指導目標の中で優先する目標として

指導目標

- ・進んで視覚的情報を得て行動できるように、見る意欲を高める。
- ・視覚補助具の基本的な操作を覚え、対象物を正しく読み取る技能を獲得させる。

指導目標を達成するために必要な項目の選定

選定された項目	1 健康の保持	2 心理的な安定	3 人間関係の形成	4 環境の把握	5 身体の動き	6 コミュニケーション
	(3) 身体各部の状態の理解と養護に関すること。	(2) 状況の理解と変化への対応に関すること。 (3) 障害による学習上又は生活上の困難を改善・克服する意欲に関すること。	(1) 他者とのかかわりの基礎に関すること。	(1) 保有する感覚の活用に関すること。 (3) 感覚の補助及び代行手段の活用に関すること。 (4) 感覚を総合的に活用した周囲の状況の把握に関すること。 (5) 認知や行動の手掛かりとなる概念の形成に関すること。	(5) 作業に必要な動作と円滑な遂行に関すること。	(3) 言語の形成と活用に関すること。 (5) 状況に応じたコミュニケーションに関すること。

選定された項目を関連付け具体的な指導内容を設定

具体的な指導内容

- ・話している人や提示された物に注意を向けさせ、そちらに顔を向けて見るように促す。
- ・興味を引くような教室内の掲示物や物品などを準備するとともに、見たり操作したりしようとする意欲を引き出す。
- ・絵本や低学年向けの図書などを使用し、自分の眼について関心を持たせ、視機能を維持することの大切さを理解させる。
- ・見えにくいことによって困っているときに、周囲の人に説明し援助を求めることができるようにする。
- ・単眼鏡で対象物を捉え、ピントを合わせて正しく読み取らせる。
- ・単眼鏡を使って板書の単語を正しく視写させる。

資料編
資料 I

(2) 個別指導計画 (年間)

弱視通級指導学級

平成○年度
個別指導計画

○立○小学校 弱視通級指導学級

児童氏名	○○ ○○		
在籍校	○立○小学校 1年○組		
指導形態・指導時数	他校通級 週1回 4時間 (個別指導) * 小集団指導 学期2回6時間		
眼疾患・視力等	眼疾患	未熟児網膜症	
	視力 (矯正)	遠方	両: (—) 右: (0. 0 6) 左: 光覚
		近方	両: (—) 右: (0. 0 6) 左: 光覚
	最大視認力	M a x . 0 . 2 5 (3 c m , 左)	
	視野	未検査	
	視覚補助具	遠: Specwell × 7 → 0. 6 * 在籍学級に遠近両用拡大読書器の導入を検討中 近: Peak × 1 0 → 0. 6	
備考	* 眼鏡装用 * 拡大教科書使用 (国語)		

弱視通級指導学級への要望	本人	・ 工作をたくさんしたい。
	保護者	・ 弱視レンズを上手に使えるようにしてほしい。
	在籍学級担任	・ 文字の読み書きなど、学級では十分に行き届かない面の支援をお願いしたい。 ・ 学級で配慮することを具体的に助言してほしい。

		年間目標	主な内容
自立活動	国語	<ul style="list-style-type: none"> 見る意欲を高め、進んで見ることで周りの状況を適切に捉えることができる。 視覚認知力を高め、見比べる・見付ける・調べる力を身につける。 手指を使う活動を進んで行い、目と手の協応を図りながら、生活や学習に必要な基本動作や用具の操作技能を身につける。 視覚補助具の基本的な操作を覚え、正しく読み取ることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 教育的視機能評価 教室の掲示物や配置、歩行時の安全、整理整頓等 違い探し、迷路、線図形の模写、補完図、ペグさし、色板、観察等 ひもを結ぶ、紙を折る等はさみ、絵の具等の工作用具や、ほうきやちりとり、雑巾等の生活用品、楽器等の使用や操作 単眼鏡：ピント操作、読み取り、視写、広範囲の探索 (正しく→早く)、教室の自席からの実地練習 (在籍校訪問) ルーペ：読み取り、視写 拡大読書器：基本操作、読み取り、遠近切換操作、視写 (遠用)、教室での活用 (在籍校訪問) 準備運動の動作、姿勢や動きの視覚模倣等固定遊具やボール、縄を使った運動等

資料編
資料 1

(2) 個別指導計画 (学期)

弱視通級指導学級

1 学期：個別指導計画・評価 (学習状況報告)

在籍校名 学年		○立○小学校 1年		評価	
児童氏名		○○ ○○		できる	だいたいできる
目 標		内 容			
自立活動	身の周りのものに興味を持ち、進んで見ようとする。視覚的情報を得て適切に行動することができる。	話している人や提示された物に顔を向けて見る。	○		
		教室内の掲示物や物品などを見たり操作したりする。	○		
		健康や安全に過ごすために自分で気を付けることを考える。			○
	全体と部分の関係や空間的な位置関係を捉えて表現することができる。	形や色などの特徴を捉えて正しく読み取る。(文字、絵など)			○
		見本の図形をよく見て、同じ図形を構成する。(初級レベルの線図形の模写、補完図、ペグさし、色板など)			○
	手指を使う活動を進んで行い、手元や対象物を丁寧にしながら作業することができる。	ひもを結ぶ・ほどく、紙の端を合わせて折る。			○
		切り取り線を意識して、はさみで丁寧に切る。(直線、折れ線) p159 参照			○
		絵の具と水の量を調節し、筆の向きを考えて色を塗る。	○		
	単眼鏡の基本的な操作技能を身に付け、単語や短文を正しく読んだり視写したりできる。ルーペや拡大読書器の基本的な操作が分かる。	単眼鏡で対象物を捉え、ピントを合わせて正しく読み取る。	○		
		単眼鏡を使って板書の単語を正しく視写する。			○
ルーペや拡大読書器を使って文字や絵などを読み取る。		○			
いろいろな運動遊びを進んで行う。	模倣の体操、肋木の上り下り、跳び箱や平均台を使ったサーキット運動などの運動遊びで進んで体を動かす。	○			
教科の補充	平仮名を正しく読み書きできる。	字形を整えて平仮名を書く。	○		
		似た形の文字に注意して正しく平仮名を読む。			○
		拡大教科書のレイアウトが分かり、目的のページを開いて見つける。	○		
	具体物や絵図を見て、1対1対応で正確に数えることができる。10までの数の合成分解がわかる。	見落としや重複せずに端から順に数える。			○
	おはじきやブロック、数字カードを利用して、10までの数について合成や分解をする。	○			

総合所見

顔を上げ相手を見ながら会話するようになり、表情が明るくなり積極性が増しました。校内を移動するときには周りをよく見て、また音や床の材質の違いなども手がかりにして、行動範囲が広がりました。通級時に、在籍学級のできごとなどを話すことも多くなってきました。

着替えの時、外した眼鏡を無造作に机の上に置いたため、脱いだ衣類に紛れてしまい見つけるのに手間取ったことがありました。眼鏡は自分にとって大事な物だから大切に扱うことや、片付けながら次の行動に移ると便利であることを話すと、その後の着替えから、眼鏡の扱い方に気を付けようとする様子がみられました。

御家庭の協力を得て、手作りの布製カバーやストラップを用意してもらったことで、単眼鏡に対して「自分の物」という愛着がわいてきたようです。弱視レンズ類は大事な物だという意識が今後さらに芽生えてくることを期待しています。操作技能面では、途中で諦めずにピントを合わせて、ランドルト環や絵カードを正しく読むことができるようになりました。今後は、手際よくピント合わせができるように指導を継続していきたいと考えています。

指導日数・時数

○日 (○時間)

以上のとおりご報告いたします。

平成 ○年○月○日

○立○小学校 校長 ○○ ○○印

弱視通級指導学級 担任 ○○ ○○印 ○○ ○○印

資料編
資料 I

自立活動学習指導案(弱視・個別指導)

※ 下の【 】は
自立活動の該当する
区分(項目)を示しています。

- 1 児童 ○○ ○○ (第1学年)
2 指導者 ○○ ○○
3 本時の目標

- ・瞬時に提示される文字を単眼鏡を使って正しく早く認知することができる。【4(1)(3)】
 - ・単眼鏡を使って板書の単語を正しく読むことができる。【4(1)(3)】
 - ・単眼鏡を使った板書の視写の仕方が分かり、書き写そうとする。【4(1)(3)、5(3)(5)】
- ー 以下 略ー

4 展 開

	学習活動	支援 ○ 評価 ☆	教材教具
5分	・ランダムな位置に提示された文字カードを単眼鏡で素早く読む。	○1枚目のカードを使用し、ピント合わせができていないか確認する。 ○カードの位置を捉えるのに手間取っているときは、指導者の足下から手に向かってたどるように言葉をかける。 ☆瞬時に提示される文字を単眼鏡を使って正しく早く認知することができる。	・単眼鏡 ・平仮名文字カード
10分	・交互にしりとりをしながら板書に書かれた単語を単眼鏡で読む。	○書き始める単語の上に目印のマグネットを貼り、定位しやすくする。 ○左手で単眼鏡を持つように確認する。 ☆単眼鏡を使って板書の単語を正しく読むことができる。	・目印用マグネット
10分	・板書の単語を書き写す。	○右手で鉛筆を持って書くので、単眼鏡は常時左手で持っていることと便利に気付く。 ○声に出して読ませ、1文字ずつではなく単語を読み覚えてから書くように促す。 ☆単眼鏡を使った板書の視写の仕方が分かり、書き写そうとする。	・書見台 ・記入用紙(3cm角のマスキ用紙) ・鉛筆(4B)

※ 1単位時間の自立活動の学習のうち「視覚補助具の活用」の指導を抜粋